



埼玉県マスコット「コバトン」

Vol. 75

花とみと

特集 花と緑の振興センターのこれから



昭和39年頃に県内（児玉郡神川町内）のお堂にあった大木から穂木を取って育てたといわれています。

「夫婦」の名は1つの花に2つの実がなることがあることに由来するものです。枝が枝垂れ、花弁は半八重咲き、めしべが2本ある花が結実すると2つが癒着した状態の実がなります。

ウメ「夫婦枝垂れ（めおとしだれ）」

《 巻頭言 》

昭和28年4月に埼玉県植物見本園として開所以来、庁舎や展示園の新設、園内舗装などの整備が行われ、昭和57年にほぼ現在の状態になりましたが、園路などの老朽化が年々進んだことから、令和元年度～3年度の3か年にわたり、開所以来初の大規模改修工事を実施しました。

さらに庁舎2棟のうち1棟について、令和3年度、外壁塗装と建具交換などの庁舎大規模改修工事を実施したことにより、庁舎並びに展示園は、来園されるお客様が安全かつ快適に御利用いただける施設にリニューアルしました。

当センターではこの工事期間を、植物展示園の魅力を上向きさせる絶好の機会ととらえ、新しい展示コーナーの整備や植栽管理の見直しなど職員で企画し計画的に管理作業を進めてまいりました。今後も御利用される皆様が、植物に親しんでいただき、埼玉県の花植木の利用拡大につながるよう引き続き努めてまいります。



彩の国
埼玉県

埼玉県花と緑の振興センター



《 特集① 魅力ある展示園づくり 》

植木類の利用拡大を目的に、植木・造園や設計・建築関係者、県民に対して、近年の住宅事情に合わせた新しい樹種を紹介するための展示コーナーを設置しました。今年度は、東園に人気の高いアカシアやグレビレアなどオーストラリアの植物を集めた植栽コーナーを、西園にはソヨゴやアオハダなど住宅に植えてみたいシンボルツリーとして使われることが多い樹種を集めた植栽コーナーを新たに設置しました。

植木類の利用拡大につながるよう今後も展示内容の充実に取り組んでいきます。

また、これまで分散して植栽されていたボタンを来園者が見やすいよう集めたボタン園も設置しました。

今後も植木類の利用拡大を図ることや来園者に楽しんでいただける魅力ある展示園づくりに取り組んでいきます。



オーストラリアの植物を集めたコーナー



シンボルツリーを集めたコーナー

《 特集② 人材育成 》

4月から11月末まで20回にわたり開催した「街の緑サポーター養成研修（実技）」を21人が修了しました。

例年、研修期間は2月末までですが、庁舎営繕工事との調整で、落葉樹剪定や四ツ目垣製作などは、12～2月に4回の特別講義として開講しました。

この研修で習得した知識や技術を生かし、園芸ボランティアや地域の緑化活動のリーダー役としての活躍が期待されます。

マツのみどり摘みを行う研修生



《 緑のコラム① こんな植物もあります 》

オーストラリアの植物を集めたコーナーに新たに植えたグレヴィレア（ヤマモガシ科グレヴィレア属）という木です。オーストラリアやパプアニューギニアあたりが原産とされ、日本ではまだ珍しいものです。

写真は、ジョンエバンスという品種で、変わった形状の花が楽しめます。



木の姿



花を近くから見ると

《 特集③ 花植木類の利用拡大 》

本県花植木類を取り巻く環境は、都市化の進展に伴う緑の減少や需要の低迷による価格の低下など、産業として、また地域の発展にとって向かい風が吹いている状況にあります。そうした中、

当センターでは令和2年度7月に生産、流通、利用の各段階の関係企業、団体などが一体となって設立された「花植木類利用拡大推進ネットワーク」の活動を支援し、広範な観点から利用拡大を促進しています。

令和3年度の新たな活動としては、川口市内大規模商業施設での展示、販売イベントや新たにホームページを制作、リリースしこれまでより広範に県内花植木を紹介するなどしました。

これからも多様な発想による活動を支援して県内花植木の利用拡大につながっていくよう支援していきます。



【安行四季彩マット】



【埼玉県が特許を取得した植木植栽容器】



住宅向け花植木の植栽展示（川口・鳩ヶ谷住宅公園）

大規模商業施設での展示（ララガーデン川口）



ホームページ（トップ）デザイン
<https://hanaueki-saitama.jp>

《 特集④ 展示園安全対策工事、庁舎営繕工事 》

花植木展示園は、開園以来全面的な補修を行っていなかったため施設の老朽化が進んでいました。そこで、令和元年度から3か年にわたり展示園安全対策工事を実施し、元年度は西園園路の再舗装や階段の更新を、2年度は東園A駐車場（17台）の新設などを行いました。

そして、最終年である3年度は、東園園路の再舗装や転落防止柵の追加設置、西園正門の更新工事を行い、園内をより安全・快適に見学いただけるようになりました。

また、3年度は庁舎外壁や建具類の長期修繕工事を併せて実施し、建物機能の維持に加え、玄関ドアの自動化や西園駐車場拡幅による車両導線の改善などにより、来園者の利用しやすさが大きく向上しました。



拡幅し視認性が向上した西園正門



再舗装した東園園路と県産木材を使用したベンチ

《特集⑤ 盆栽輸出の促進・線虫防除試験》

当センターと農業技術研究センターの共同で、輸出向け盆栽を対象にした線虫防除試験を実施しています。アバメクチン乳剤（2020年6月適用拡大）とネマバスター液剤は、ネグサレセンチュウに登録のある農薬です。

イブキ盆栽を使用した試験の結果、線虫の活動が活発な春から秋の方が、低温期の冬よりも殺線虫効果が高い傾向が認められています。線虫は非常に小さく肉眼では見えないため、栽培地検査の2年間に定期的に薬剤浸漬処理をすることが望ましいことが明らかになっています。



イブキ盆栽への薬剤処理（浸漬）試験

《緑のコラム② 団体紹介・植物振興協会》

埼玉県植物振興協会（会長：城處 章・会員30名）は、埼玉県産苗木植木の改良発達を図り、もって緑化産業の振興と会員相互の福利増進をはかることを目的に、昭和34年10月16日に県内の苗木、植木取扱業者により組織されました。

今日では公益財団法人日本さくらの会と連携して、東北から九州南西諸島まで日本全国に多種、高品質のさくらの苗木を出荷する供給力の高い団体となっています。



さくら苗木の調製集荷作業

《トピックス① 外国人盆栽講座》

外国人対象の盆栽講座をさいたま市の大宮盆栽美術館で開催しました。農産物の海外への紹介事業の一環として、そして盆栽の普及も目指しての実施です。盆栽にも「農業」の面があります。埼玉県は盆栽の輸出県で、出荷量は全国トップクラス。EU、中国などに輸出販売されています。当日は若い人たちが多く参加し盆栽の魅力の講話や、手入れの体験、美術館見学を好評のうちに終えることができました。



講座の様子・針金掛け

《トピックス② 園内ガイドツアー》

当センターでは、ツバキ・サザンカ類、サクラ、ウメ、カエデ類、ツツジ類、サクラソウといった植物について、貴重な遺伝資源を残していく観点から、品種の収集や保存を行っています。このうち、カエデ類、ウメ、ツバキ・サザンカ類及びサクラについては、県民からの関心が特に高いことから、わかりやすく解説しながら園内を巡るガイドツアーを開催しています。参加者からは、「樹々に対する説明があつて益々愛着を感じるようになった」などの評価をいただいています。



つばき・さくらガイドツアーの様子

発行 埼玉県花と緑の振興センター

発行人 所長 甲賀真人

電話 048-295-1806 ファクシミリ 048-290-1012

E-mail h951806@pref.saitama.lg.jp

ホームページ <http://www.pref.saitama.lg.jp/hana-midori/index.html>

